不登校を背景要因に持つ生徒に対する構成的グループエンカウンターの効果

～適応指導教室での事例を通して～

○曽山和彦　　本間恵美子　　谷口清
（秋田県立本荘養護学校）　（秋田大学教育文化学部）　（東京慈恵会医科大学医学部）

【目的】

本研究では，不登校を背景要因に持ち，適応指導教室に通う生徒に対し，構成的グループエンカウンター（以下，SGE）を実施し，生徒の自尊感情や社会的スキルの向上，ストレス反応の軽減に及ぼす影響について検討した。

【方法】

対象：Ｂ適応指導教室に通級する中学生 6 名（2 年男子 2 名，女子 1 名，3 年男子 2 名，女子 1 名）

SGE実施期間と回数：1999.10 月～ 2000.2 月に 12 回

測定具：①社会的スキル：戸ヶ崎他（1997）の「中学生用社会的スキル尺度」25 項目に，独自に作成した 12 項目を加えた 37 項目。②自尊感情：Rosenberg（1965）の「自尊感情尺度」10 項目。③ストレス反応：三浦他（1995）の「中学生用ストレス反応尺度」24 項目。

手続き：上記①②③の測定具を用いた質問紙を SGE 事前（7 月）と事後(2 月)の 2 回，生徒 6 名に実施した。また，上記①③の測定具を用いた質問紙を同様な手順で生徒 6 名の行動について教師 3 名が評定した。なお回答は４段階で評定を求めた。さらに，生徒に対しては SGE 実施後，毎回，振り返り用紙への記述を求めた。教師に対しては 12 回の SGE 実施後，社会的スキル，自尊感情，ストレス反応に関するアンケートを実施した。

【結果】

○生徒の自己評定：社会的スキル得点は SGE 事前＜SGE 事後であり，有意差が認められた。（Wilcoxon 符号付き順位検定：p=.046）　ストレス反応得点は SGE 事前＞ SGE 事後でかなり減少したが，分散が大きく，有意差は認められなかった。（表１）

○教師による生徒評定：社会的スキルとストレス反応について，SGE 事前と事後の得点を比較したが有意差は認められず，効果は見られなかった。（表１）

○生徒の自己評定と教師による生徒評定の差：生徒の自己評定及び教師による生徒評定で得たデータを用いた。その結果，SGE 事前は両者の評定差がストレス反応得点（生徒＞教師）で有意（両側ｔ検定：$t(22)=3.906$，$p<.01$）であったが，SGE 事後は両者の得点が接近し，その差は有意でなくなった。

○生徒の振り返り：「女子と話ができて楽しかった」等，集団内のリレーションに関する記述が多く見られた。また，「友だちを少しだけ信じられた」等，自分自身を見つめるような記述も見られた。

○教師の振り返り：「男女の間の壁がなくなった」，「集団活動を期待するようになった」等，集団内の雰囲気がよくなり，リレーションが高まったとする記述が多く見られた。

【考察】

本研究では生徒の自己評定がプラスに転じたこと，それにより教師による生徒評定との得点差が接近したこと，生徒および教師の振り返り記述にプラス面の変容が記されていること等から SGE の効果が示唆されたと考えられる。これまで SGE は普通学校生徒を対象に多くの実践と研究が行われてきている。本研究の対象である不登校を背景要因に持つ生徒に対しては，十分なウォーミングアップ，段階的なエクササイズの配置等に留意することで，集団内のリレーションが高まる，新たな自己に気づく，ストレス反応が軽減するという効果が示唆された。

表１　SGE 事前事後の各変数の平均点，標準偏差及び検定結果

変数（満点）	生徒の自己評定得点			教師による生徒評定得点		
	SGE 事前(SD)	SGE 事後(SD)	p	SGE 事前(SD)	SGE 事後(SD)	t 値
社会スキル総合(136)	99.33(9.03)	106.67 (12.31)	.046*	104.44(13.32)	105.80(15.37)	-.271
自尊感情(40)	22.67(4.18)	22.83(6.05)	1.000	―	―	―
ストレス反応総合(88)	52.33(9.35)	43.83(21.62)	.172	37.50(7.63)	39.27(10.05)	.570

p は有意確率　　† .10>p>.05　　* .05>p>.01　　** .01>p

（注１）自尊感情については，外から評価をするのは難しいと考え，教師による生徒評定は行っていない。